

喜らし見つめて

男の汚券 衰退!



最近、半数の男性が家庭のトイレで座って小便をしているようだ。『立ちション衰退』は、「飛び散るから座ってして」

と、夫を厳しく教育する妻側の優勢を象徴しているのか。お宅ではどうしてますか？
(井上圭子)

座ってする急増中

妻「どれだけ飛び散ってだもん」と悔しげに話する。松下電工の昨年の調査では「座ってしている」男性は49%。一九九九年(15%)から八年間で三・三倍に急増し、「たまたに座って」も13%いた。家庭での立ちションが衰退したのはどうして？
同調査では「周りを汚さないため」(45・8%)が最多で、「薬だから」(24・2%)、「便座の上げ下げが面倒」(16・3%)が続いた。「温水洗浄便座の水が出るころにかかってほしくないから」という回答も。

高さ75センチから30秒間、400ccの便器外に最高で301滴

実際、どれほど飛び散っているのか。

松下電工が実施した、立ったままの放尿を想定した「高さ七十五センチから三十秒間、四百ccを放水」実験では、便器外へ飛び散る水滴数は①「便器の手前の斜面を狙う」「三百一滴」②「奥壁を狙う」「二百一滴」③「水たまり部分を狙う」「八十五滴」の順に多かった。

同社は「水たまりを狙えば飛び散りは最少になる。的を光で示す便器も出している」とアピールす

「立って、が自然」でも…

るが、③の場合でも、家族の男性二人がそれぞれ一日三回すれば、計五百十滴がトイレを汚す計算だ。果たして、半数まで減った「家庭内立ちション派」は生き残れるのか。
厚木市立病院泌尿器科の岩室紳也医師は「医学的には立ってする方が自然。日本人男性の六割が仮性包茎なのに、皮をむいて排尿する習慣が定着していないから便器や床を汚している」と指摘。さあ、

「思いっきり放尿できる小便小僧がうらやましい!!」
JR浜松町駅で

背後に妻の力 「飛び散ったら掃除して!」

セニールは47%が「窓なし」パンツ
一方、「窓」なしパンツの増加も、立ちション衰退に影響しているようだ。下着メーカーのセニールが二〇〇八年春夏物で出荷する男性下着の47%は「前閉じタイプ」。〇一年(25%)に比べ二倍増。同社広報室は「前閉じタイプで用を足す場合、わざわざベルトを外してパンツの上から出すなら、座った方が楽と考えられる男性が増えたのでは」と推測する。
座りションの増加で、こんな余波も。
先月、都内の保育園で、園長から「小学校の入学式までに、立ったまま『社会の窓』からおしっこをする練習を」という宿題が出された。この園長は「自宅で座っているのか、園で立ってするときもズボンとパンツを下げないといけない子がいる。小学校に行ったら入りかき、からかわれたらかわいそうなので」と話す。